

第九章

学習情報の提供

18 学習情報の提供の意義と方法

1 なぜ学習情報提供が必要なのか

生涯学習に関する情報は、あまりにも大量で多種多様なため、個人が学習機会に関する情報を統一的に把握することはかなり難しくなっている。そのため、学習環境そのものは豊かであっても、その中から、学習者が自分の必要とする学習の情報をうまく選び出すことができないということもおこっている。そこで、生涯学習情報になるべくもれなくとらえ、それらをわかりやすく提供することが求められるようになってきた。

2 コンピュータの活用

学習情報の整理・提供にコンピュータを活用することによって、求めるデータに、よりスムーズにたどりつくことができるようになる。真岡市の学習情報提供やNHK放送データ情報部の事例は、そういうコンピュータの特性を生かしたものである。

ただし、コンピュータを使うことだけが目的になってしまつて、情報を求める現実の人間にとっては不都合なものになるようではいけない。電話帳のように冊子体であることによる便利さや可能性も一方ではあるのだ。また、冊子体では検索に困るほどの情報量と複雑な検索条件があつてコンピュータを使う場合でも、ユーザー側がそれを使いこなせなければ意味がない。人間に親切な（ユーザーフレンドリーな）システムが必要なのである。そのためには、ユーザー、またはその代弁者が、システムエンジニアに的確にニーズを伝えなければならない。さらには、学習情報提供の場合には、システムとしてのソフトともに、学習情報そのものの量と質が勝負どころに

なる。「コンピュータ、ソフトなければ、ただの箱」なのである。

3 各種メディアの有効活用

千厩町の「生涯学習カレンダー」は、家庭内のブライベートな日々の動きと町の生涯学習関連事業を直接に結びつけるのに役立っている。茅野市の「生涯学習メニューブック」は、学習者が独自のプログラムをつくるための道具である。いずれも、一覧性、親しみやすさなど、活字媒体のメリットをうまく活用している。また、戸内町のハミリ映画「わがまちの新しい風、生涯学習」は、言葉や文字だけでは伝えきれないものを、映像メディアとあわせて伝えるものといえよう。コンピュータを活用するなどして、豊かな学習情報のどれもが、だれでもいつでも即時に入手できるように努めるとともに、このように、学習者の立場に立って学習情報を編集し直して、各種メディアの特性を生かして提供することも大切である。

4 ギブ・アンド・テイクの情報交流

今日の生涯学習の重要な側面の一つとして、従来の教える人と教えられる人との縦の関係ばかりでなく、互いに得意な分野を教えあったり、共通する関心ごとに応じて学びあったりする、横の関係としてのネットワークを指摘することができよう。日本視聴覚教育協会の「A・V・P・U・B」に見られるように、パソコン通信の世界では、迷路のような情報交換とおしゃべりが行われている。この「迷路」を、「求める情報にたどりつくには、効率が悪い」として避けようとする人もいるが、情報を与える（ギブ）人にこそ、情報は集まる（テイク）という原則に立ち戻る必要がある。

学習情報提供事業も、学習者の学習情報処理行動のすべてを節約するためのものではなく、むしろ、学習者自身が活発に、しかし無意味な労力は払わずに情報を発信・受信するための手助けなのである。

「生涯学習モデル市町村」の指定を契機に

コンピュータによる学習情報提供

■栃木県真岡市^{もおか}

栃木県南東部に位置する真岡市。人口約六万一千人。豊かな緑と親水性をそなえた河川を残しつつ、市民のモラルの向上によるまちづくりをすすめている。

本市では、図書館、青年婦人会館等の生涯学習施設のほかに、青少年と高齢者のふれあいの場となる宿泊施設「自然教育センター」、コンピュータカレッジ「職業訓練法人真岡情報処理学園」、植物や野鳥の観察ができる「自然観察センター」（平成三年六月開設予定）などを中心に特色ある活動が続けているが、平成元年に文部省より「生涯学習モデル市町村」の指定を受けたのを契機に、生涯学習のまちづくりを推進している。

まず、生涯学習推進本部（市長が本部長）・推進幹事会を設置し、学習課題の設定、学習関連施設のネットワーク化、生涯学習関連事業の体系化などを実践して、生涯学習社会の形成を全庁的な立場でめざしている。

特に、市民への学習情報を提供するため、平成二年七月よりコンピュータを導入。

真岡（もおか）市

真岡市の都市イメージは「住むまち、働くまち、学ぶまち、そして生きがいのあるまち」といわれている。

その内容は、①人材情報マスター（講師、ボランティア等の指導内容、連絡先など）②団体情報マスター（団体・サークル等の活動内容、参加方法、代表者名等）③事業情報マスター（学級・講座、講演会、展示会等の内容、主催者、実施期間、参加方法等）④相談情報マスター（各種資格の種類、取得方法、相談時期、学習プログラムの内容等）⑤施設情報マスター（学習活動の場となる施設の所在地、設備状況、利用方法等）のシステムとなっている。

そのうち、人材情報は、広く市民によびかけ登録することにしており、地域の要請に応えようとしている。

さらに、これまで「もおか広報おしらせ版週報」「真岡市の社会体育」「図書館だより」「市政ごよみ」「健康カレンダー」など様々の学習情報を一つにまとめた「生涯学習だより」を平成三年四月より発行し、コンピュータによる情報提供と併せて、市民の生涯学習にきめ細かな援助をはかっている。

（真岡市教育委員会 金数信行）

真岡市の生涯学習推進の基本

- (一) 快適な環境づくり
- (二) 心ふれあうまちづくり
- (三) 活力あるまちづくり
- (四) 文化の香り高いまちづくり
- (五) 明るく住みよいまちづくり

なお、真岡市では、それぞれの項目について、各ライフステージごとに学習課題を設定している。

過疎の町を逆手にとって

「わがまちの新しい風」を映画に

■広島県戸河内町とこうち

「祈るような気持ちで開発に期待しているのですよ」。町長は今、まちおこしに必死である。広島市の西北部、島根県に接する戸河内町は、県下市町村のなかでは五番目に広い過疎の町である。昭和三十五年当時、人口八千二百二十人であったが六十年には四千八百人を切っている。当然のことながら、労働人口も減少し、急激な高齢化社会を迎えている。それだけに、町としてはなんとかして町の活性化を図りたい。最近、中国自動車道が全線開通し、あわせて戸河内インターチェンジが開設され、誘致企業二社も迎えるようになった。それでも過疎の波は止まっていない。「祈るような」はそうした町への町民の願いでもある。そこで、町としては、今後は急速に迫っている長寿社会へ、むしろ積極的に対応するとともに、農林業の振興と観光開発を軸に、県下に模範となる長寿の町を実現しようと、新しい動きをはじめた。

その一つが「生涯学習の町」をめざすことである。住民ひとりひとりが生涯学習を通じていきがいを持ち、アイデアを出し合い、地域の活性化にもつなげ

生涯学習と映像

最近、文部省が地域映像情報整備充実事業、郵政省がハイビジョン・シティ構想、通産省がハイビジョン・コミュニケーション構想、自治省が地域情報化計画やハイビジョン・ミュージアム構想を打ち出すなど、生涯学習や文化の振興も含めた地域における高度映像技術の活用に関する施策が続々と生まれている。

一方、文部省科学研究費補助金総合研究「生涯学習時代にお

たいというもので、平成元年三月二十二日「生涯学習の町宣言」を町議会で決議した。「わたくしたちは、このまちの町民であることを誇りとし、人間の尊厳を基調におき、町民すべてが主役となつて、自然を愛し美しいまちを、健康と勤労を尊び豊かなまちを、おたがいに敬愛しあい明るいまちを、伝統を重んじ未来を育み文化のまちを具現することを生涯学習に求め、『生涯学習の町』とすることを宣言」したものである。

そのために町としては「まちづくりシンポジウム」「生涯学習のまち推進大会」等、町民の研修の機会を充実するとともに、「広報とこうち」で『生涯学習新時代』を掲載したり、各種委員の先進地視察等をすすめている。特に効果をあげているのは、町が製作した8ミリ映画「わがまちの新しい風、生涯学習」。およそ二十分のこの映画は、町民に考えさせる機会をつくっているようである。谷間のまちから、全国の同様な悩みを持つ町にヒントを与えるような、新しいアイデアが生まれ、様々な試みが行われるよう期待したいものである。

ける文化映像の製作・保管・活用に關する調査研究—平成二年度中間報告書—によると、その研究の緊急の課題として、

(一) 映像の実態調査の本格実施

(二) 製作、保管、活用の前提になる映像分類体系の作成
(三) 映像の保管、活用のための著作権問題の解決
が、あげられている。

生涯学習情報としての映像活用を進めるためには、高度技術の動向への注目とともに、すでに蓄積されている映像の把握と整理、著作権問題の解決などが重要であることがわかる。

“情報源情報”の宝庫

■東京都渋谷区

生涯学習を推進するためには、学習者の求めに応じて学習情報の提供・相談を実施し、学習活動を支援することが大切である。また学習情報の提供に当たっては、的確で迅速な情報の収集・整理・加工・分析を行い、いつでも対応できる体制づくりが重要である。

さらに大事なことは、生涯学習に関するガイドブックのような二次的な情報源はもちろんのこと、一次的な情報源である生涯学習に関連する施設・事業・人材等についても把握しておくことである。

東京都渋谷のNHK放送総局データ情報部は、まさに“情報源情報”の宝庫と言つてよい。なぜなら、情報の収集・整理・加工・分析・提供・開発の方法など、ここには生涯学習関係者にとって学ぶべきことが多いからである。

データ情報部では、NHKの放送全般に関する資料を収集・整備・保存し、放送番組の企画・制作などに重要な役割を果たしている。また、これらのデータベースを作成して、NHKの全国ネットと外部ネットによりデータを提供し

放送と視聴者の生涯学習との関係

良質の放送番組の拡大のためには、番組提供側の良識に期待すべきところも大きい。が、視聴者が自覚的に視聴行動を起こすとすれば、もっと根本的な効果が期待できる。放送視聴をととした市民の生涯学習の実態が現在よりも内実の豊かなものになれば、結果として、放送全体が生涯学習に貢献するような内容を獲得するのだといえる。

ているのである。

その主な業務は次の通り。①ニュース・番組のビデオテープ、フィルムなどの収集・整備及びデータベース作成等 ②こよみ、年表、人物・団体、事件・事故・災害データベース作成 ③図書、雑誌、新聞、調査・統計などの収集・整備ならびに時代考証及びデータベース作成 ④レコード、コンパクトディスク、楽譜、録音テープ、音楽情報などの収集・整備及びデータベース作成 ⑤資料写真の収集・整備 ⑥各種資料の貸し出し業務等 ⑦データベースの開発管理及び内外への提供——などが三百六十五日、二十四時間体制でなされている。

さらに注目したいのは、株式会社NHK情報ネットワークを通じて、①ニュース（映像）②番組映像記録 ③できごと情報 ④こよみ365 ⑤ニュース（ヘッドライン）⑥ニュース（コメント）——など放送の記録から暮らしに役立つ生活情報まで、生涯学習関係機関・団体はもちろんのこと、学習者個人にも提供され活用できるようになっていることである。

放送情報ネットワークを活用して、生涯学習の推進を図りたい。

放送番組の保存・活用の新しい
動向

平成元年度に放送法、電波法が改正され、郵政大臣の指定法人として放送ライブラリーが発足した。これは、放送番組を貴重な文化財として評価し、後世に継承して、放送文化の発展を期そうとするものである。

生涯学習関係者のパソコン・ネットワーク

「AV—PUB」のサロンで私的交流

■東京都港区

港区虎ノ門の日本視聴覚教育協会が、文部省の支援も得て教育関係者のためのパソコン通信「AV—PUB」を運用している。これは、「視聴覚教材情報全国システム」という正式名称のしており、AV関係のデータベースであり、電話線を通して全国から利用できるようになっている。

しかし、愛称の方はPUB（酒場）であり、その中にサロン（談話室）という電子掲示板もある。バブのように気楽に入って必要な情報を手し、ついでにサロンで全国の仲間とディスブレーを通しておしゃべりもできるわけである。

最近、このサロンで生涯学習関係者の書き込みが盛んになってきた。LLLLというゆるやかなつながりの小さなグループである。メンバーは近隣の社会教育主事、小学校教師、新聞記者などで、時には、本当に飲み屋で集まって一杯やることもあるが、ほとんどは自分の空いている時間、すなわち深夜、自宅から発信する。

いずれにせよ、フォーマルな立場での気遣いは不要、その意味では「私的」

な交流である。そこで、授業、講演、執筆、学会発表、出張、視察、研究発表会参加などの事前・事後報告や他のメンバーとのやりとりが行われる。今まで話題になった主なものの出現順に紹介してみよう。

ニューメディアに関する専門性の内容、社会教育施設のLAN化、情報ボランティアの意義、コンピュータ教育に必要な知識体系、根底的な学社連携としての教え方の技術の交流、情報処理能力の内容、リーダーシップトレーニングのノウハウ、DIY(手作り)メディアの評価、子どもにキーボードストレスはあるか、社会教育主事の発問や学習プログラムなどの交換の必要、学習情報提供が抱える問題点、小さな市町村の生涯学習関係職員の高い通信ニーズ……。

その他、宇宙は有限か無限か、太古の哺乳動物について、海外旅行のコツ、出張先のうまいもの情報求む、マシンの情報や選定についてなど、実際の流れはミスマッチ(M)でアバウト(A)でジグザグ(Z)でイージー(E)で、まるで迷路(MAZE)を楽しんでいるかのようだ。

AV-PUBには、教育に関係する人なら誰でも加入できる。電話料金だけ負担すればよい。技術的にわからないことはLILのメンバーが助けてくれる。

AV-PUB視聴覚教材情報全国システムの内容の一部(抜粋)

- | | |
|-------------|---------------------------|
| 1 AVサロン | → サロンのな雰囲気の中での意見交換、情報交換 |
| 2 ソフト&ハード | → 視聴覚教材、放送番組、新機材情報など |
| 3 研究カレンダー | → 関連学会・団体主催による研究会の案内など |
| 4 読みものアラカルト | → 文献・資料・報告書・雑誌などの広報の場 |
| 5 虎ノ門ニュース | → 文部省や関係官庁の各種情報、関連統計など |
| 6 AVワールド | → ICEM(国際教育メディア協議会)からの情報 |
| 7 AV資料室 | → 記事索引、アドレス、学習指導案、利用者一覧など |
| 8 初期メニュー | → 全体のメニューに戻る |
| 9 終了 | → 通信を終了する |

的確な情報を提供する

“生涯学習カレンダー”の配布

■岩手県千厩町

生涯学習カレンダーというのをご存知だろうか。地域における人々の生涯学習を援助する様々な事業や文化、スポーツ行事などが、カレンダーとしてまとめられたものである。

岩手県東磐井郡千厩町。宮城県境近くに位置する両磐地方のかなめの農山村である。同町内の各戸に配布され、広く活用されているのが、町および同町生涯学習推進本部（藤野光男町長が本部長）が作成した「生涯学習カレンダー」である。

カレンダーの内容は豊富で、千厩町のカラーがふんだんに強調されている。たとえば、「春の交通安全運動」「みどりの週間」など月々の運動、「老人歯科検診」「家庭の日」「人権相談の日」「郡中学校体育大会」など、町民の生活に関連の深い町内外の行事が登場する。町民の体育、スポーツ活動の行事やPTA参観日など地区の社会教育行事もわかり、家庭のメモ欄として、日々、各家庭で記入できる欄がある。

千厩町の特徴

・源義経の愛馬「太夫黒（たゆうぐろ）」のふるさと。
・東洋一の奇岩「夫婦石（めおといわ）」、メオトピアのまち。
・生涯学習宣言のまち（平成二年十一月大会採択、十二月議会議決）。

そのほか、町内の生涯学習関連施設の案内として、各種施設名、電話番号等が目立つように記され、月々のカレンダーの下之余白には、町民憲章、町の教育目標などがスローガン風に一項目ずつ印刷されている。

このカレンダーを通じて町内各戸は、生涯学習について常に啓発されているということである。

千厩町は生涯学習の町づくり構想を推進し、生涯学習推進整備の初年度（昭和六十三年度）をホップの年、次年度をステップ（歩調合わせの年）、三年次をジャンプの年として、生涯学習の町を宣言した。したがって生涯学習カレンダーの作成は、生涯学習ハンドブック（手引き）の作成とともに、町民に対するこの初年度の啓発事業の一環として行われたものである。

生涯学習のまちづくりは、いつでも、どこでも、誰でも学べる条件が整備されたまちづくりということである。同時に、どこで、いつ、何が行われるか、参加方法はどうかなど、学習にかかわる情報が的確に提示されていなければならない。千厩町の生涯学習カレンダーは、いわば、そうした情報提供の一つの方法である。しかも、日常生活の中で不可欠なカレンダーとして作成し、各戸・町内企業・事業所等にも配布した点が評価されよう。

メオトビア

千厩町の生涯学習だよりの名前前は、メオトビアである。

命名の理由は、

（一）日本一の夫婦石にちなんだものである。

（二）夫婦の円満は家庭の円満。生涯学習の原点は家庭から。家族ぐるみで学習ができます。

（三）まろやかな地域社会。互いに認め合う社会が学習を発展させます。

ということである。「家族ぐるみ」が千厩町の生涯学習推進のキーワードの一つになっていると考えられる。

広範囲な学習情報を提供する

『生涯学習メニューブック』の発行

■長野県茅野市

長野県茅野市生涯学習センターでは、このほど市民の生涯学習を進めるためのガイドブックとして『生涯学習メニューブック』を発行した。

同市はこれまで、自治公民館の活動を中心とした公民館活動の充実や学校教育における生涯学習担当委員の設置、生涯学習課の設置といった推進体制を整備するなど、生涯学習の振興に取り組んできており、昨年秋季には「りんどうの里、高原生涯学習都市」を宣言した。その生涯学習まちづくりとしての取り組みの一つが「学習メニュー方式」と呼ばれる独自のプログラムの開発である。

これは、さまざまな学習機会を通じて学習者が、各プログラムの中から自分が希望するプログラムのコマをひろい、独自のプログラムをつくるというもの。従来の学級・講座では、自分では希望しないコマにも参加しなければならぬという、いわば定食型のメニューであったのに対して、メニュー方式はいわばバイキング料理ともいえるべきものである。それだけにメニュー方式では、より多くの、しかも広範囲の学習機会が用意されているということが必須の条件と

茅野市の特徴

八ヶ岳山麓の自然と調和した高原リゾート観光地域。また、生涯学習都市宣言を行い、生涯学習のまちづくりを推進している。

平成二年度、「活力のあるまちづくり」として優良地方公共団体自治大臣表彰を受けた。

なる。同時に、その情報が的確に提供されていなければならない。

『生涯学習メニューブック』は、この学習情報提供の一環として作成されたものである。生涯学習センター（教育委員会事務局および市長部局）が提供する講座・研修、鑑賞メニュー、青少年教育活動メニュー、母親学級、ボランティア活動等の機会が、開催日時、学習内容、講師、学級講座名、開催場所別に詳しく紹介されている。

一方、各社会教育施設（同市ではこれを基礎生涯学習センターと呼んでいる）でも、それぞれ学習メニューがあげられている。例えば、公民館本館（学習・文化情報センター）の学級・講座、講習会、セミナー・大学、イベントなどのほか、総合体育館（体育スポーツ情報センター）では、スポーツ教室、実技講習会、競技会、大会、団体などがある。もちろん総合博物館、図書館のメニューや、市内各保育園、小・中学校の家庭教育学級、学校開放講座についても詳しく紹介されている。そのほか、教材メニュー、資格取得、技術研修情報など具体的に取り上げられている。

学習メニュー方式は、すでに太田市（群馬県）、青垣町（兵庫県）で一部実施されているが、市民が自ら学習メニューを作成するには、よほどの学習意欲の高まりとメニュー作成技術が必要である。

学習メニュー方式による学習の展開

茅野市では、学習者が学習活動を展開し、学んだことを自己評価していくなかで、学習プログラムの修正を行い、再度、学習の展開をしている。その過程は左の図のようになっている。

